



PV[®] 10AT • PV[®] 10BT コンパクトミキサー

オペレーション マニュアル

PV[®] 14AT 14 INPUT STEREO MIXER WITH DIGITAL EFFECTS, MEDIA PLAYBACK AND BLUETOOTH[®] powered by Antares Auto-Tune[®]

CONTROL ROOM
SOLO/MAIN
A/B SELECT

USB
RECORD LEVEL TO CONTROL ROOM
MEDIA SELECT
EFX SELECT
Auto-TUNE
USB MEDIA PLAYBACK
DIGITAL EFFECT/MEDIA PLAYBACK

HEADPHONE/SOLO/MAIN
LEVEL

PV[®]10AT、PV[®]10BT

コンパクトミキサー

Peavey PV[®]10AT、PV[®]10BT コンパクトミキサーをお買い上げいただきありがとうございます。The PV[®]10AT、PV[®]10BTは、小型ながら様々なニーズに対応するように設計されたスタジオ品質のミキシングコンソールです。ハイパフォーマンスが求められない環境、ホームレコーディングなどに最適なコンソールです。PV シリーズミキサーの特徴はビルトイン DSP エフェクトにあります。リアルレコーディング、サウンド強化に便利な一方、パラメータコントロールにより、各エフェクトをニーズに合わせて調整できます。

PV 10 BT は基準品質マイクプリアンプ4チャンネル、レコーディング用ダイレクト出力4、ステレオチャンネル、Bluetoothワイヤレス入力のメディアチャンネル、LCD ディスプレイの高品質デジタルエフェクト、ストリーミングUSB 出力、USB A 入力を介したMP3再生、Peavey 独自 Kosmos オーディオエンハンスメント、48 ボルトファントム電源、デュアル選択コントロールルーム出力、コンプレッション2チャンネル、各チャンネル3バンドEQ (バイパス)、チャンネルミュートボタン、AUXセンド、信号クリップインジケータ、ステレオマスターLEDメーターブリッジがあります。この多様なミキサーがスタジオでもライブでも使えます。Bluetoothなどの機能によって、ほとんどの「スマート」デバイスとシームレスな接続が可能です。4ダイレクト出力ではほとんどのDAW インタフェースに簡単に接続してレコーディングできます。またPV 10 BTはPCに直接オーディオをストリーミングできます。MP3の再生もできます。MP3ファイルを入れたフラッシュドライブをUSB Aポートにつなぎ、LCDを使って音楽を選択・再生します。PV シリーズのソロ機能では、個々のチャンネルをヘッドフォンやコントロールルーム出力から聞け、EQバイパスでは、ボタンを押して、EQ後の信号を元の信号と比較できます。コンプレッション2チャンネルは難しいレベルを調整して信号をキープし、Peavey独自のギターシェイプは、ギターのためにEQ、プリアンプを調整します。ハイパスフィルター(全チャンネル)は不要なノイズをなくし、平衡AUX・マスター出力はノイズのないクリーンな信号をパワースピーカーやパワーアンプに送ります。デザインを一新したPVシリーズ無電源ミキサーは、パフォーマンスと価値の頂点を極めています。

これらの機能に加え、PV10ATはAntares[®]の有名なAutotune[®]2チャンネルにより、ボーカルのハーモニーを細かくタイトにしたり、ロボットのようなボーカルエフェクトを出力するよう設定できます。Peavey独自のカスタムキー機能によって、ライブパフォーマンスで、考えられるどのスケールにも自動的に、簡単にチューニングできます。素早く簡単です - セット中、曲の間にセットアップできます。

機器の安全とともに人身の安全を守るため、本書をよくお読みください。

特徴

- 4 コンビネーション1/4"、XLR 低ノイズマイクプリアンプ
- ステレオ1/4"、RCA または3.5mm 入力チャンネル
- Bluetooth ワイヤレス接続
- 全チャンネルに3バンドEQ
- 4チャンネルのPeavey 独自Mid-Morph
- すべてのマイク入力に150 Hz ローカットスイッチ
- LEDクリップ、信号あり表示
- 個別チャンネルミュート
- 各マイクチャンネルにEQ バイパス
- 個別チャンネルコントロールのオンボードスタジオ品質デジタルエフェクト
- エフェクト、再生LCD ディスプレイ
- 1 プリフェーダーAUX センド
- マスターの精密60 mm フェーダー
- デュアル選択コントロールルーム出力 / 独立レベルのレコード出力
- グローバル48Vファントム電源
- 平衡 1/4"、XLR コネクタのメインステレオ出力
- 堅牢コンソール設計
- 2チャンネルビルトインコンプレッション
- 各チャンネルステレオパンコントロール
- オンボードUSB-A MP3 再生
- 4チャンネルダイレクト出力
- Kosmos -Cバス、トレブルエンハンスメント
- チャンネル9/10ステレオリターン/入力
- 個別ソロ機能
- ステレオUSB-Bストリーミングオーディオ入出力
- 高品質マスター LEDメーターブリッジ
- マスターマイクミュート
- スタジオ品質ヘッドフォン出力
- Peavey独自オンボード1 Megギター入力
- Antares Auto-Tune、Peavey 独自カスタムキー機能



取付けの注意:

本機は、可燃表面から次の間隔を空けて取り付ける必要があります。上部:8"、側面:12"、背面:12"

1 **マイク/ライン入力(CH.1-8)**

¼" または XLR 平衡プラグを受けるコンビネーション入力ジャックです。マイクその他の低インピーダンスソースを対象に最適化された XLR 平衡入力です。¼" 入力は TRS 平衡タイプで、通常の TS ギターケーブルにも対応します。

2 **ダイレクト出力**

マイクプリアンプ、ハイパスフィルター、コンプレッサーの後、EQ ステージの前のインピーダンス平衡 TRS 出力信号です。

3 **AUTO-TUNE アクティブ化ボタン、LED (PV10AT のみ)**

このボタンを押して PV10AT オンボード AUTO-TUNE 機能をアクティブ化します。AUTO-TUNE モードの時にボタンが点灯します(エフェクトセレクト {50}、次ページ参照)。

4 **ゲイン**

チャンネルに適正なゲイン構造を確立する入力ゲインコントロールです。最適な結果を得るには、ゲインをセットしながら、ソロシステム (19) によりチャンネルをモニターします。目標は、歪みのない最大ゲインです。メイン LED メーター (ソロのとき) とチャンネルの信号/クリップインジケータ (16, 17) はゲインの調整に使用できます。クリップ LED (16) が点灯し、点灯したままの場合は、ゲインを下げてください。

5 **150 Hz ハイパスフィルター**

ハイパスフィルターはコーナー周波数 150 Hz です。オンのとき、ミックスサウンドが濁る低周波をカットすることによって鮮明度を高めます。この機能は特に、風のある日、ノイズが多く、うつろに響くステージなど、屋外でのプレイに便利です。このような環境ノイズがあると、サウンドシステムの出力が奪われます。このスイッチをオンにすることで、そのような周波数を必要に応じてシステムから除去し、出力を回復することができます。

6 **コンプレッションコントロール (チャンネル1、2のみ)**

時計回りに回すとコンプレッサーのしきい値が下がり、コンプレッションの量が増えます。コンプレッサー比は 4:1 で、信号レベルとコンプレッション量によって変わります。ライブソースからピークレベルを調整する時に便利です。ライブボーカルのレベルを細かく弱めるように設計されています。コンプレッサーはゲインコントロール (5)、ハイパスフィルター (4) の後、ダイレクト出力 (2) の前なので、外部機器にパッチできます。

7 **コンプレッサー LED**

コンプレッサーが信号を圧縮している時に点灯します。

8 **ハイEQ**

低域のレベルを変更するアクティブトーンコントロール (シェルヴィングタイプ: ±15 dB) です。

9 **MID-MORPH EQ (CH.1-7)**

ミッドレンジコントロールはほとんど、1つの周波数だけに有効ですが、Mid-Morph は2つの周波数で有効です。反時計回りに回すと、250Hz でカットし、音が濁る周波数を減らします。時計回りに回すと、4kHz でブーストし、ボーカルにメリハリをつけます。どちらにしても、ボーカルや楽器の輪郭を際立たせます。

10 **ローEQ**

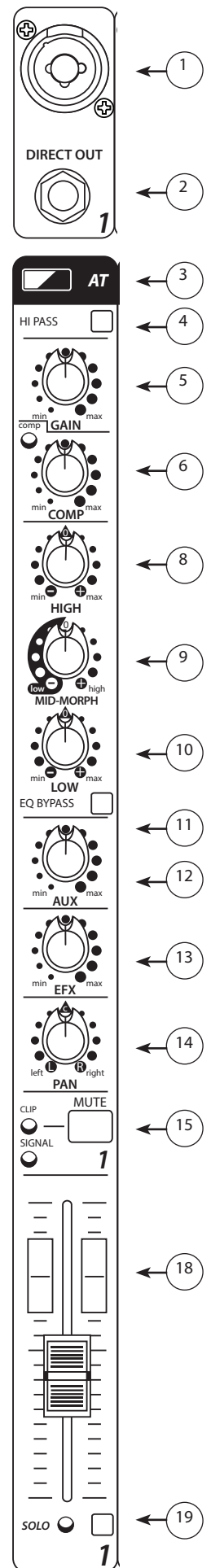
低域のレベルを変更するアクティブトーンコントロール (シェルヴィングタイプ: ±15 dB) です。注意: 低域ブーストが多すぎる場合、消費電力が大きくなり、スピーカーが破損する可能性も大きくなります。

11 **EQバイパス**

チャンネルのイコライジングをバイパスし、EQ設定の効果を容易に聞こえるようにします。

12 **AUXセンド**

AUX出力に送られるチャンネル信号のレベルを調整します。信号は、チャンネルレベル (18) の前、チャンネルEQの後なので、EQ設定の変更はAUXミックスに影響を与えますが、チャンネルレベルコントロールの変更は影響を与えません。AUXバスでの一般的な用途は、ライブパフォーマンスではステージモニターをフィードし、レコーディングではヘッドフォンアンプをフィードすることです。



PV10AT フロントパネル(チャンネル1、2)

13 EFX センド

エフェクトミックスに送られるチャンネル信号のレベルを調節するコントロールです。信号は内部エフェクトプロセッサに送られます。ノブを左(最小)に回すと、関連チャンネルのエフェクトがオフになり、右に回すと、選択したエフェクトの量が増えます。エフェクトSEND信号は、チャンネルレベル(18)の後で取得されるので、フェーダーに対する調整はSENDレベルにも影響を与えます。

14 パンコントロール

このノブは、ステレオフィールドで信号の配置を調整します。反時計回りに最後まで回すと、信号は左チャンネルのみ。時計回りに終わりまで回すと右チャンネルのみになります。このコントロールはバランスコントロールとして、ステレオチャンネル5/6、7/8の左右の信号の相対レベルを調整します。(ch 5-6、9-10の1/4"入力は両方が接続されているのでなければモノで、ステレオに切り替わります)

15 ミュートスイッチ

メインミックス、AUX SEND、エフェクトに行くチャンネル信号をサイレントにします。ミュートスイッチはソロシステムに送られる信号には影響を与えません。

16 クリップ/ミュートLED

通常は、チャンネル信号レベルがクリッピング(歪み)に近づいていることを示すLEDです。ミュートがオンのときにも点灯します。クリップインジケータ回路は、ゲインコントロールの後、EQの後、メインレベルの後の信号をモニターします。クリッピングは、これらのコントロールを高く設定することによって起こり得るからです。静的信号(テスト音)の+15 dBuで点灯し、かなりダイナミックな信号(ピアノ)での可聴クリッピングに対応します。点灯時、ゲインまたはEQブーストを下げる必要のあることを警告します。点灯時はおよそ5 dBのヘッドルームが残ります。入力ゲインの最適設定+EQにより、ピークボリュームでこのLEDが短く点滅します。

17 信号LED

信号LEDは、チャンネルレベルが約-20 dBuに達すると点灯します。これは、どのチャンネルがアクティブかを示すだけでなく、ミニレベルメーターにもなります。点灯は信号ソースによって変わるので、どのチャンネルにどのソースがあるか確認する時に便利です。

18 チャンネルレベルコントロール

左右のミックスとエフェクトSENDコントロールに送られる信号レベルを設定するチャンネル出力コントロールです。ゲインは、デントをmid(12:00)にセットした時に0 dB(ユニティゲイン)です。最大ゲイン設定で10 dBブーストになります。通常動作は、このノブのデントで始め、入力ゲインとEQを-ソースを信号/クリップLED、メインメーターアレイで通常レベルが分かるように再生してセットします。ソースを追加する時は、通常、このノブを少し下げてメインミックスバスのオーバードライブを避けます。

ソロスイッチ、LED

19 ソロスイッチが入ると、黄色LEDが点灯し、マスターセクションのメインL/Rメーターアレイ下にある黄色ソロLEDも点灯し、ソロシステムがアクティブであることを示します。ソロシステムは個別ミックスバスで、ユニティゲインのソロにしたチャンネルをレベルメーターにルーティングして正確な入力レベルが設定されるようにし、また、コントロールルームモニターとヘッドフォン出力にルーティングして、選択されたソースをよく聞けるようにします。ソロシステムがアクティブな時、コントロールルームやヘッドフォンから完全なミックスは聞けなくなります。ソロにしたチャンネルのみです。

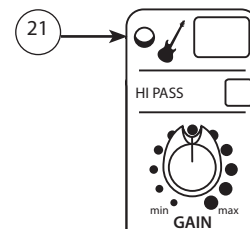
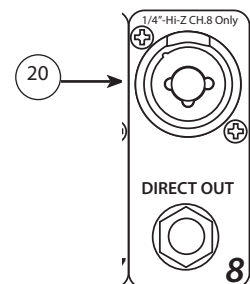
PV10AT フロントパネル(チャンネル4)

20 マイク/ライン入力(チャンネル4のみ)

「ギターシェイプ」が押されている場合を除き、この入力はチャンネル1~3と同じです。エレキギタープリシェイプがオンの時、1/4"入力は、12AX7真空管ギターアンプ入力のように高インピーダンス(1MegΩ)になります。

21 エレキギタープリシェイプ

エレキギターのオンボードイコライジングを最適化します。



22 3.5mm ステレオ入力

MP3 プレーヤー、CD プレーヤー、テープデッキなどのデバイスの出力からステレオ入力を受けるチャンネル 5/6 への3.5mm入力です。この入力は、携帯デバイス用に最適化されていて、好感度です。

23 ステレオ入力

チャンネル5、6 には1/4" 入力もあります。ジャックを1つしか使用しない場合、パンコントロールのあるモノソースになります。両方のジャックを接続すると、バランスコントロールのあるステレオソースになります - 5は左、6は右。

24 USB メディアジャック

リムーバブルデータストレージデバイスを接続して音楽を再生するAタイプUSBコネクタ。

USB再生

最初、入力選択スイッチ (27) をUSB A位置にスライドさせます。LCDディスプレイ下に「USBドライブをセット」と表示されます。USBドライブをチャンネル 7/8 上にあるUSBメディアジャック (24) にセットします。メディアプレーヤーはここで「フォルダナビゲーションモード」になります。このモードでUSBドライブの全フォルダーをスクロールできます。フォルダーを選択すると、メディアプレーヤーは「曲ナビゲーションモード」になり、ここで選択したフォルダーにある全曲のリストをスクロールできます。選択したフォルダーに曲がない場合、LCDに「曲がありません」と表示されます。フォルダーナビゲーションモードに戻るには、リストの頭までスクロールし、<FOLDERS>オプションを選択します。

曲の再生が終わると、メディアプレーヤーは次の曲の再生を始めます。メディアプレーヤーが最後の曲に来ると、リストの先頭にループバックします。

25 Bluetoothペアリングボタン、LED

BluetoothペアリングボタンはBluetoothをオン/オフするために使います。青色 "Bluetooth アクティブLED" は Bluetooth 接続ステータスを示します。LED がオフのとき Bluetooth モジュールは電源が入っていません。LED がゆっくり点滅している場合、PV ミキサーはデバイスとペアになっていませんが接続はできます。LEDがずっと点灯している時、ソースデバイスはミキサーと正しくペアになっていて再生できます。

ペアにしたデバイスのメモリーをクリアするには、Bluetoothがオフになっているのを確認し、Bluetoothペアリングボタンを5秒押します。PV ミキサーは、Bluetoothメモリーをクリアするかどうか聞いてきます。メディア選択ノブで“Y”を選択し、メモリーをクリアします。PVミキサーはメモリーをクリアします。これには約15秒かかります。

26 RCAメディア入力

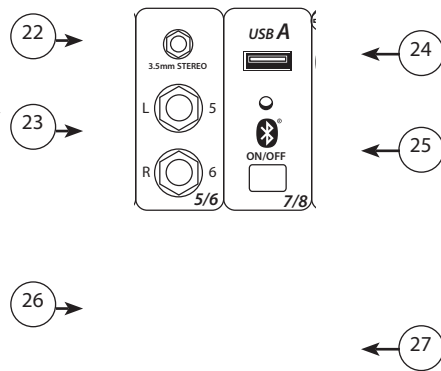
MP3 プレーヤー、CD プレーヤー、テープデッキなどのデバイスのステレオソースを受けるチャンネル 5/6 へのRCA入力です。この入力は、携帯デバイス用に最適化されていて、好感度です。

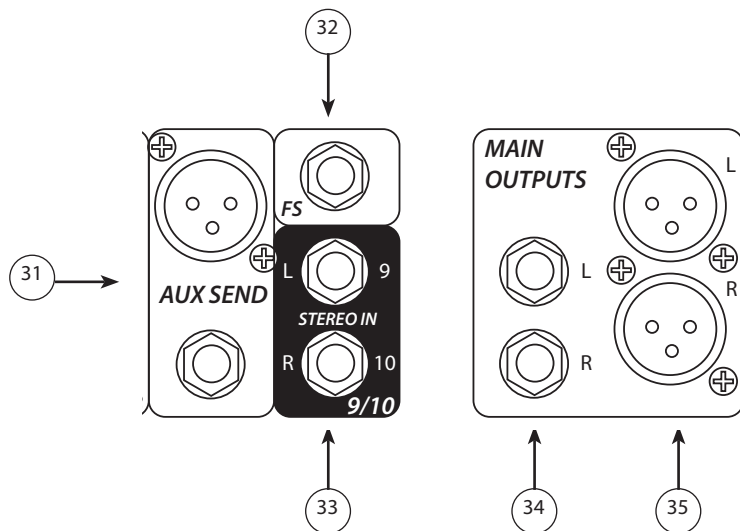
27 デジタルソースセレクタ

このスイッチはUSB A (24)、USB B (68)、内部Bluetoothレシーバーを選択します。

28 MID コントロール

ステレオチャンネルの中域は +/-20 dB @ 440Hzです。ハイ (8)、ロー (10) のコントロールは先に述べた通りです。





29 アナログバランスコントロール

アナログチャンネル5/6のバランスを調整します。

30 デジタルバランスコントロール

デジタルチャンネル7/8のバランスを調整します。

31 AUX センドXLR、1/4" 出力

AUXセンドマスターレベル(52)によってフィードされるグランド補正TRS平衡出力。XLRは内部でTRSと平行です。平衡インターコネクト(XLRまたはTRS)を使ってハム、ノイズの回避率が上がりますが、非平衡ティップ・スリーブ(TS)ケーブルも有効です。

32 フットスイッチ

Peavey の2 ボタン専用モメンタリフットスイッチ(部番 03014070)と併用するTRSジャックです。このTRSジャックのティップ、スイッチ1はEFXミュートスイッチをリモートでアクティブ化します。TRSジャックのリング、スイッチ2は、ATモデルのAuto-Tuneをリモートでオフにします。これはAuto-Tuneを目立たないように利用しています。フットスイッチを使うと、曲間で話したことは自動チューニングされません。

33 1/4"ステレオ入力

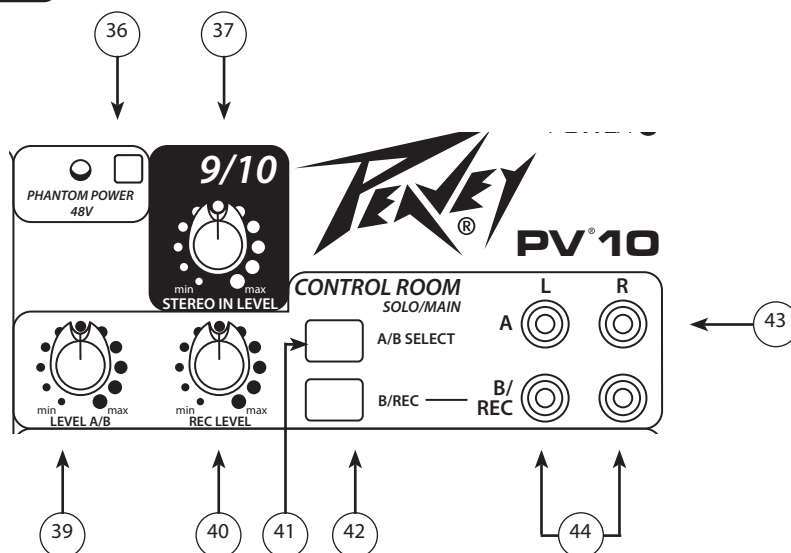
チャンネル9、10は1/4"ジャックのステレオペアで、AUX入力や、外部プロセッサからのエフェクトリターンに仕えます。ジャックを1つしか使用しない場合はモノソースになります。両方のジャックを接続するとステレオソースになります - 9は左、10は右。

34 1/4"ステレオ出力

マスターL、Rフェーダー(60)によってフィードされるグランド補正TRS平衡出力。TRSジャックは内部でXLRと平行です。平衡インターコネクト(XLRまたはTRS)を使ってハム、ノイズの回避率が上がりますが、非平衡ティップ・スリーブ(TS)ケーブルも有効です。

35 XLRステレオ出力

マスターL、Rフェーダー(60)によってフィードされるグランド補正TRS平衡出力。XLRジャックは内部でTRSと平行です。平衡インターコネクト(XLRまたはTRS)によってハム、ノイズの回避率が上がります。



36 ファントム電源

+48 VDC 電圧を XLR 入力コネクタに印加し、ファントム電源を必要とするパワーマイクに電源を供給します。ファントム電源を使用する場合、非平衡ダイナミックマイクその他のデバイスは、この電圧を処理できない XLR 入力に接続しないでください。

37 ステレオ入力レベル 9/10

入力ジャック 9、10 のレベルを調整します。ジャックを1つしか接続していない場合、L、R の両方に送られます。両方のジャックを接続している場合、9 はL、10 はRです。Aux出力は外部エフェクトプロセッサにフィードでき、これらのジャックはエフェクトリターンとして使用できます。またはセカンドミキサーをここでデイジーチェーンにできます。

39 レベルA/B

A、B両方のコントロールルーム出力のレベルを調整します。B/RECスイッチ(42)が上の時、アクティブな出力はA/Bセレクトスイッチ(41)で選択されます。B/RECスイッチが下の時、調整されるのは出力Aだけです。

40 RECレベル

B/RECスイッチが下の時、B/REC出力のレベルを調整します。**注: B/RECスイッチが上の時、このコントロールは無効です。**

41 A/Bセレクト

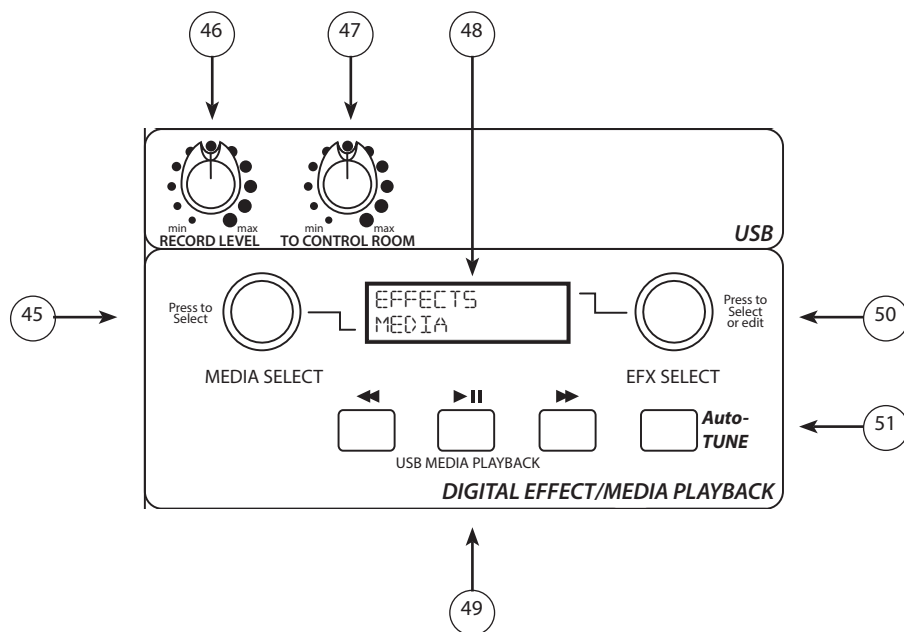
このスイッチが上の時、出力Aはオン、出力Bはオフです。このスイッチが下の時、出力Bはオン、出力Aはオフです。このスイッチを使って、ニアフィールド、ファーフィールドのモニターなど、2種類のモニターペアのミックスを評価します。両方のモニターリングシステムでレベルコントロールを設定することで、A/B比較を素早く行えます。モニター全体のレベルはレベルA/Bによって調整します。**注: B/RECスイッチ(42)が下の時、このスイッチは無効です。A出力は常にオンのままで、レベルA/B(39)によってフィードされます。**

42 B/REC スイッチ

B/REC出力の機能を決めます。上の時、B/RECジャックはモニターB出力として機能し、A/Bセレクトによって選択され、レベルA/Bによって調整されます。下の時、B/RECジャックは独立録音出力で、レベルはRECレベルによって調整されます。

43 コントロールルームモニター出力A

パワーモニターまたはモニタースピーカーをフィードするアンプをここに接続します。A/Bスイッチを切り替える時、モニターA、Bのボリュームコントロールを等しくセットします。この出力に送られる信号は通常、左/右ミックスになります。USB「コントロールルームへ」ポット(47)はUSBリターン信号をこれらモニター出力にフィードして、DAWレコーディングの設定で使用できるようにします。ソロLEDが点灯している時(62)、聞こえるのはソロにしたソースだけです。**注: B/RECスイッチが下の時、A/Bセレクトは無効になり、この出力はレベルA/Bコントロールによって調整されます。**



44 コントロールルームモニター出力B/録音出力

この出力ペアは「B」録音モニター出力、またはB/RECスイッチ (42) が下の時、独立調整できる録音出力になります。注:B/RECスイッチが下の時、A/Bセレクトは無効になり、この出力はB/RECコントロールによって調整されます。

45 USB録音レベルノブ

ミキサー背面にあるUSB Bコネクタに送られる信号のレベルを調整します。推奨設定は12:00ですが、レベルや感度の違いに対応できるワイドレンジです。

46 コントロールルームレベル

ミキサー背面にあるUSB Bコネクタから戻る信号のレベルを調整します。信号はコントロールルーム、ヘッドフォン出力にルーティングされ、DAWでマルチトラックレコーディングに使用できます。推奨設定は12:00付近です。

47 メディア・エフェクトLCDディスプレイ

このLCDディスプレイの上部は現在選択されているエフェクト、下部はMP3プレーヤーのステータスを表示します。これはUSBドライブのフォルダをナビゲートしたり、現在再生されている曲を表示するのに使用できます。下部はまた、電源オン、オフ、メモリークリア時にBluetoothのステータスを短い時間表示します。

48 メディア選択

USBデバイスをチャンネル8に接続した後、「メディア選択」エンコーダでドライブのフォルダ/曲をナビゲートできます。目的のファイルが画面に表示されたら、メディア選択ノブを押してそのファイルを選択します。再生、一時停止、早送り、巻き戻しなどの機能を使用するには、ミキサーのコントロールを使います。

49 EFX セレクトノブ

次ページの説明を参照してください。

50 メディア再生コントロール

USBジャックを通してデジタルメディアを再生、一時停止、スクロールします。

51 Auto-Tuneモードボタン (PV10ATのみ)

このスイッチを押すと、LCDトップラインのAuto-Tune編集モード、EFX編集モードが切り替わります。この機能は PV10BTでは使用できません。

EFX セレクトノブ:

EFX モード:

EFX編集モード (Auto-Tuneスイッチ参照) の時、EFX選択ノブでEFXプリセットをナビゲートします。ノブを回してディスプレイのEFXプリセットを変更します。新しく選択したものはディスプレイで点滅します。EFX選択ノブを押して新しいエフェクトを選択します。エフェクトが選択されると、ここでエフェクトを編集できます。編集するには、EFX選択ノブを押します。ディスプレイがプリセットの現在のパラメータ設定に変わります。EFX選択ノブを回してパラメータを編集します。もう一度ノブを押してEFXプリセット編集モードを終了します。EFXプリセットを出荷時設定に戻すには、EFX選択ノブを5秒押し、“Y”を選択します。

Auto-Tuneモード:

EFX編集モード (Auto-Tuneスイッチ参照) の時、EFX選択ノブでAuto-Tuneプリセットをナビゲートします。ノブを回してディスプレイのAuto-Tuneプリセットを変更します。新しく選択したものはディスプレイで点滅します。EFX選択ノブを押して新しいAuto-Tuneプリセットを選択します。

プリセットを選択したら、EFX選択ノブを押して編集できます。ディスプレイが現在のキー設定に変わります。EFX選択ノブを回してキーを変更し、キーを選択してEFX選択ノブを押します。キー設定は、Auto-Tuneプロセスでどの音が有効になるかを決めます。たとえばCメジャーでは、C、D、E、F、G、A、Bが有効、他の音はすべて無効です。各キーでどの音が有効/無効かチェックするには、下記キー表をご覧ください。

注:

カスタムキーを選択すると、ディスプレイはカスタムキー編集モードになります。このモードの時、カスタムAuto-Tuneキーを作成できます。EFX選択ノブでルート (“RT”) を選択します。これはカスタムキーの基準になる音です。次にメディア選択ノブでカーソルを動かし、EFX選択ノブでキーの12の音をアクティブ化/非アクティブ化します。カスタムキーの編集が終わったら、EFX選択ノブを押し、カスタムキー編集モードを終了します。ミキサーは9つのカスタムキーを保存できます (各プリセットスロットに1つ)。

スケール音度は上部に番号が振られ、ダッシュは半音です。

*RT=ルートまたはキー

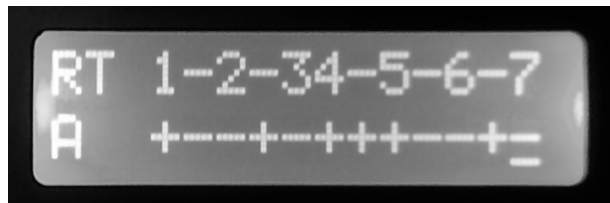


*ルートまたはキーはCであることを示します



"+"は音が使用できることを示します。
 "-"は音が使用できないことを示します。

上の、使用できる音と使用できない音のシーケンスは、全音音階です。これらのうち2つしかないのも、もう1つ取るにはルートをC#かBに変えます。



*この画面はAブルーススケールを示します。全音音階を編集してキーを変える必要はありません - ルートを変えるだけです。

キーを選択してEFX選択ノブを押すと、ディスプレイが現在の速度設定に変わります。EFX選択ノブを回して速度設定を変更します。速度設定は、Auto-Tuneでピッチを補正する速度と強度を決めます。この設定のレンジは0から25。0は最大速度、25は最小速度です。速度パラメータの編集が終わったらEFX選択ノブを押します。

ディスプレイが現在のデチューン設定に変わります。EFX選択ノブを回してデチューン設定を変更します。デチューン設定はAuto-Tuneピッチ補正の補正方法を決めます。デチューン設定が0セントの時、Auto-Tuneは標準A440に補正されます (A4=440 Hz)。デチューン設定のレンジは-64から63セント。幅は128セントです。2つの音の間の距離(半音)は100セント。すなわちAuto-Tuneはどのような環境にもデチューン(対応)できます。

注: Auto-Tuneのデチューンは特にその場で簡単にはチューニングできない楽器と併用すると便利です。たとえば、Auto-Tuneのボーカルにピアノの伴奏をつけ、ピアノが標準A440からわずかにずれている場合、Auto-Tune設定のデチューン設定を変更します!ピアノそのものをチューニングするよりはるかに簡単です!またデチューン設定はAuto-Tuneプリセット編集モードで変更されるので、これはグローバルパラメータになります。つまり、デチューン設定を変更し、後でAuto-Tuneプリセットを変更すると、デチューン設定が変わります。

デチューン設定を選択した後にEFX選択ノブを押してAuto-Tuneプリセット編集モードを終了します。Auto-Tuneプリセットをすべて出荷時設定に戻すには、EFX選択ノブを5秒押し、“Y”を選択します。

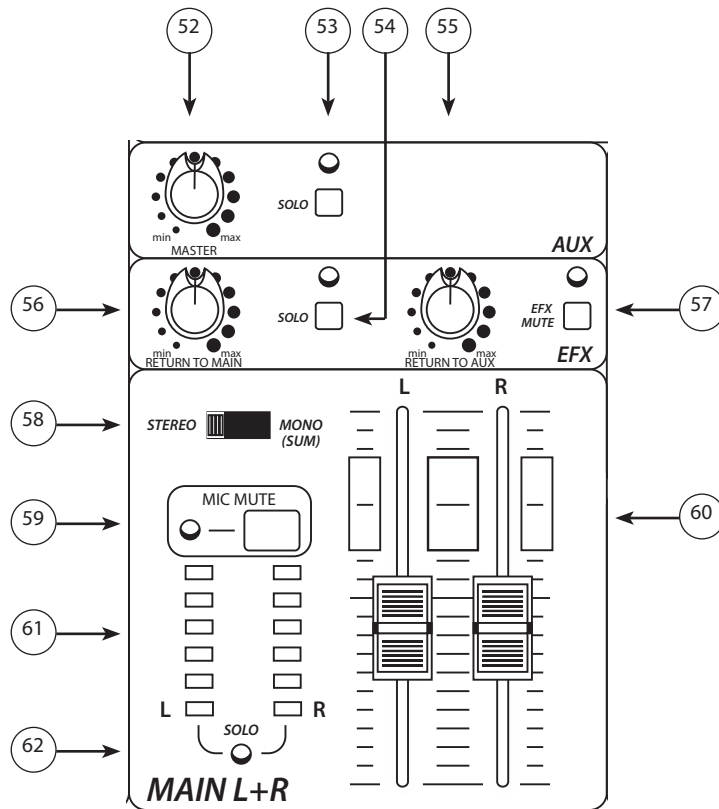
注: プリセット9は7にセットした速度とクロマチック(半音階)です。Auto-Tuneは、一般には、設定を調整せずに安全、簡単に使用することをおすすめします。遅い速度設定では、声にロボットのような効果は出ず、12の半音をすべて使えます。フットスイッチ#2を使って曲間のAuto-Tuneをバイパスします。でない話し声がAuto-Tuneで調整されます!

Auto-Tune キー表

Auto-Tune キー表

キー表示 音番 (n)=

キー	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
Chrom	C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	A	A#	B
C Maj	C		D		E	F		G		A		B
C Mnr	C		D	D#		F		G	G#		A#	
C#Maj	C	C#		D#		F	F#		G#		A#	
C#Mnr	C	C#		D#	E		F#		G#	A		B
D Maj	C	C#	D		E		F#	G		A		B
D Mnr	C		D		E	F		G		A	A#	
D#Maj	C		D	D#		F		G	G#		A#	
D#Mnr	C	C#		D#		F	F#		G#		A#	B
E Maj	C	C#		D#	E		F#		G#	A		B
E Mnr	C		D		E		F#	G		A		B
F Maj	C		D		E	F		G		A	A#	
F Mnr	C	C#		D#		F		G	G#		A#	
F#Maj	C	C#		D#		F	F#		G#		A#	B
F#Mnr	C	C#	D		E		F#		G#	A		B
G Maj	C		D		E		F#	G		A		B
G Mnr	C		D	D#		F		G		A	A#	
G#Maj	C	C#		D#		F		G	G#		A#	
G#Mnr	C	C#		D#	E		F#		G#		A#	B
A Maj	C	C#	D		E		F#		G#	A		B
A Mnr	C		D		E	F		G		A		B
A#Maj	C		D	D#		F		G		A	A#	
A#Mnr	C	C#		D#		F	F#		G#		A#	
B Maj	C	C#		D#	E		F#		G#		A#	B
B Mnr	C	C#	D		E		F#	G		A		B



52 AUXマスターコントロールノブ

Aux出力(31)からの信号の全体的レベルを調整します。AUX出力は通常、パワーアンプにフィードされ、ステージモニターをドライブするので、シンガーは、アンプを通した楽器の中で自分の声を聞くことができます。ヘッドフォンアンプにフィードされると、レコーディング時にマイクで拾われないモニターフィードが得られます。

53 AUXマスターソロボタン、LED

AUXミックスを聞くことができます。AUXマスターノブの設定は、このボタンを押した時に聞くレベルを決めます。

54 EFXリターンソロボタン、LED

エフェクトリターンを聞くことができます。「メインヘリターン」ノブの設定は、このボタンを押した時に聞くレベルを決めます。

55 AUXヘリターンコントロールノブ

AUX出力に送られる内部デジタルエフェクトプロセッサのレベルを決めます。ボーカリストのヘッドフォンにリバーブを入れる、レコーディング時にブーストを加える、実際に録音されたトラックにリバーブを加えないなどの使い方ができます。ライブでは、同じことがディレイやリバーブをモニターにフィードすることで可能です。

56 EFX メインヘリターン

メインL、R出力に送られる内部デジタルエフェクトプロセッサのレベルを決めます。

57 EFXミュートボタン、LED/クリップLED

押すと、内部デジタルエフェクトの出力はシャットオフされます。エフェクトをミュートすると、ミックスに影響を与えているエフェクトを簡単に特定できます。EFXミュートがオンの時、LEDは点灯したままです。EFXミュートがオンでない時、このLEDは内部デジタルエフェクトのクリップインジケータになります。デジタルエフェクトがクリップしている場合、EFXセンドポットのレベルを下げます。

58 ステレオ/モノモードスイッチ

モノ位置の時、左右のバスはフェーダーの後で和が取られます。この位置では、LフェーダーがLバスのレベルを調整し、RフェーダーがRバスのレベルを調整するので、L、Rバスをグループとして使用できます。たとえばボーカルはすべてパンしたL、楽器はすべてパンしたRにできます。その場合、Lフェーダーはボーカルマスターレベル、Rは楽器マスターレベルになります。

59 マイクミュートボタン、LED

このボタンを押すと、すべてのマイク入力チャンネル(1~4)、エフェクトリターンがミュートされます。メディア入力チャンネルは「ライブ」のままです。これにより、マイク入力はすべてミュートしたまま、ブレイク(音楽)を再生できます。

60 メインレベルフェーダー

メイン左/右出力(34、35)に送られたレベルを調整するマスターフェーダーです。これらのコントロールを四角の部分のミッドポイント近くにセットすると最適な結果が得られます。

61 メインL+Rメーターアレイ

L、R出力のレベルを表示するか、ソロがアクティブな時はソロにしたチャンネルを表示します。トップの緑色LEDは+4 dBuの出力レベルに対応します。赤色LEDはクリップ警告インジケータです。メーターのレンジは -17 dBu ~+ 15 dBuです。

62 メインソロLED

ソロボタンを押したときに点灯し、ソロシステムがアクティブなことを示します。

63 KOSMOS-C ハイコントロール

ハイQの選択的高周波フィルター。エフェクトはソースによって異なるので、最適な結果を得るには実験が必要です。

64 KOSMOS-C ローコントロール

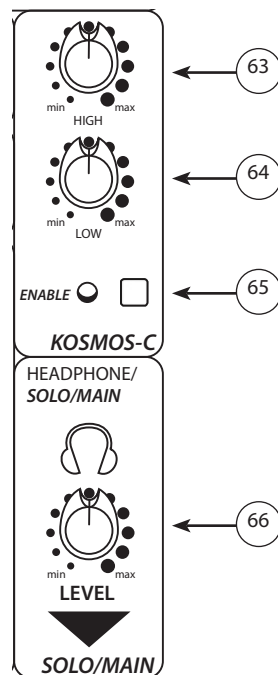
このKosmos-Cローエンハンスメントは、通常はスピーカーが機能しない下のオクターブで信号のハーモニクスを作ることによって機能します。ハーモニクスを比較的簡単に再生でき、ベースが強くなった印象を受けます。エフェクトはソースによって異なり、下のオクターブが弱いソースはベースも弱くなります。

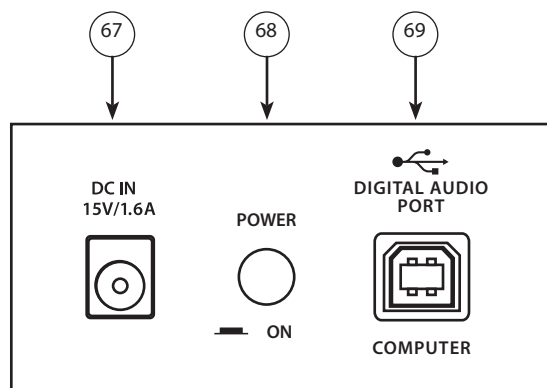
65 KOSMOS-C イネーブル

Kosmos設定の効果を簡単に切替え (A/B) できます。

66 ヘッドフォンソロ/メインレベル

ヘッドフォンのレベルを調整します。通常、ソロシステムがアクティブでなければ、ヘッドフォンはメイン出力によってフィードされます。聴覚を損なうことがないように、ヘッドフォンのレベルは常に「最小」から始めてください。





67 DC電源インレット



付属の電源を接続するために使用します。先にPV[®]10を電源に接続してからコンセントなどの主電源に接続してください。15 VDC, 1A アダプタのみ使用できます。Peavey部番 30908119とのみ交換できます。

68 電源スイッチ

メイン電源スイッチです。

69 USBポートタイプB

USBは、コンピュータとの間でデジタルオーディオをレコーディングまたは再生するため、PV[®]シリーズ USB ミキサーをコンピュータに接続するために使用します。USBポートは、ミキサーのメイン/テープステレオ出力をコンピュータに送ります。USBポートは、コンピュータからデジタルオーディオを受信します。コンピュータを再生にのみ使用している場合、セレクトスイッチ(27)を通してメイン左/右出力に割り当てることができます。レコーディングの場合、USBの「コントロールルームへ」コントロール(47)を使ってループの形成を避けます。Windows[®] Vista、Windows 7、Windows 8、Mac OS X[®] 10.0 以上、iOS デバイスに対応します。

エフェクト (パラメータ)

プレート (時間)	説明	プリディレイ減衰係数	ルーム	ルームサイズ	フロントエンドHP	バックエンドLP	備考名前
P1	ブライト	35 ms					
P2	ジェントル LP	48 ms					
P3	ミッド LP	62 ms					
P4	ハード LP	78 ms					
P5	ダーク	95 ms					

ホール (時間)

H1	Vox フォックス	35 ms	ミッド	ミッド	微	微	ミッドホール
H2	Vox 大	42 ms	ミッド	ラージ	微	微	カテドラル
H3	Vox グロー	10 ms	ミッド	ラージ	微	微	リスニングルーム
H4	ストリングス	30 ms	ミッド	ミッド	微	微	コンサートホール
H5	ブラスホール	35 ms	ハイ	ミッド	微	中	コンサートホール 2

ルーム (時間)

R1	Vox エア	30 ms	ロー	スモール	アグレッシブ	微	ハードウォール
R2	Vox クラブ	35 ms	ハイ	スモール	微	中	クラブ
R3	スネアロー	70 ms	ロー	スモール	中	微	バスルーム
R4	アコギ	42 ms	ミッド	スモール	中	微	ミッドウォール
R5	ブラスルーム	40 ms	ハイ	ミッド	微	中	ミッドルーム、ダンブドウォール

ディレイ (時間)

D1	ダブル
D2	スラップバック
D3	ブライト、リピート少
D4	ブライト、モアリピート
D5	ブライト、リピート多
D6	ダーク、リピート少
D7	ダーク、モアリピート
D8	ダーク、リピート多

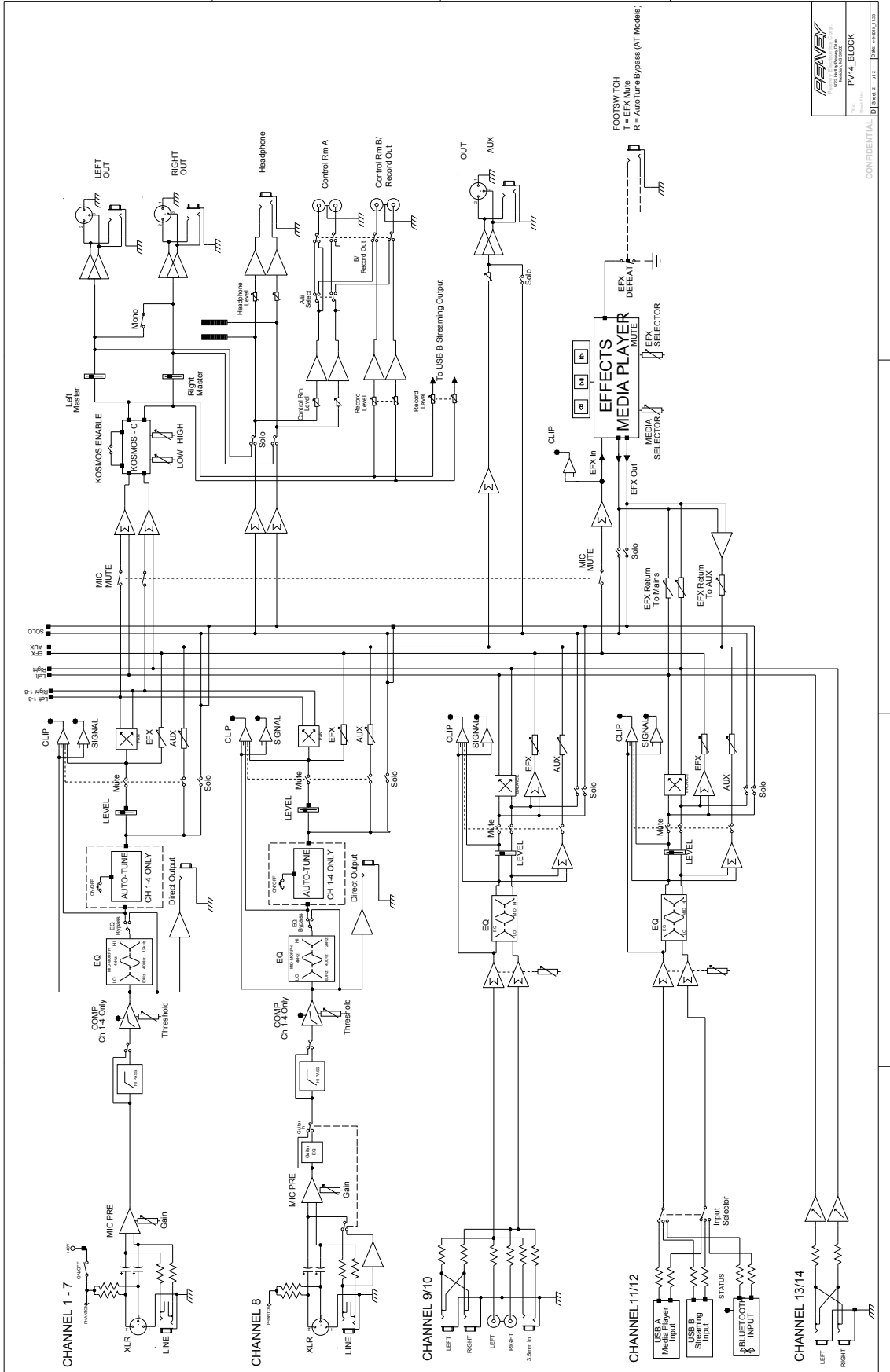
エンハンス (カットオフ周波数)

E1	高調波小
E2	高調波中
E3	高調波大

コーラス (レート)

プレート (時間)	説明	プリディレイ	コーラス時間	レート	変調
C1	ハイデプス、スローレート	10 ms	20 ms	0.1 - 1 Hz	ランダム正弦波
C2	ミッドデプス、ワイドレート	10 ms	5 ms	0.5 - 4 Hz	ランダム正弦波
C3	ショートデプス、ワイドレート	10 ms	2 ms	0.5 - 6 Hz	正弦波
C4	ショートデプス、ファストレート	5 ms	1 ms	5 - 15 Hz	ランダム正弦波
C5	ハイデプス、ミッドレート	2 ms	20 ms	0.2 - 3 Hz	ランダム正弦波

ブロック図 - PV[®]10AT & PV[®]10BT



PV®10AT & PV®10BT シリーズ仕様

マイクプレ EIN = -126 dBu @ 最大ゲイン/ 150 オームソース

入力

機能	入力 Z (オーム最小)	入力ゲイン 設定	公称入力 レベル*			平衡/ 非平衡	コネクタ
			最小**		最大		
マイク (150 オーム)	2 kΩ	最大ゲイン (59 dB)	-71 dBu	-51 dBu	-39 dBu	平衡	XLR ピン 1 Gnd ピン 2 (+) ピン 3 (-)
		最小ゲイン (4 dB)	-17 dBu	+5 dBu	+16 dBu		
ライン (10 k オーム)	10 kΩ	最大ゲイン (40 dB)	-52 dBu	-32 dBu	-20 dBu	平衡	1/4" TRS; ティップ (+) リング (-) スリーブグランド
ライン4TS、GTRシェイプオン	1 Meg Ω @ ≤ 200 Hz, 12AX7入力同様	最小ゲイン (-15 dB)	+2 dBu	+23 dBu	> +32 dBu		
ステレオ入力 5/6	10 kΩ	最大ゲイン (18 dB)	-31 dBu	-12 dBu	+1 dBu	非平衡	1/4" TS; ティップ (+) スリーブグランド
		公称	-13 dBu	+6 dBu	+19 dBu		
ステレオ入力 9/10	6.8 kΩ	最大ゲイン (18 dB)	-23 dBu	-13 dBu	+3 dBu	非平衡	3.5mm; ティップ=L, リング=R, スリーブグランド RCA: ティップ (+), スリーブグランド
		公称	-15 dBu	-5 dBu	+12 dBu		
3.5mm, RCA	2.8 kΩ	最大ゲイン (18 dB)	-43 dBu	-23 dBV	-10 dBu	非平衡	3.5mm; ティップ=L, リング=R, スリーブグランド RCA: ティップ (+), スリーブグランド
		公称	-24 dBu	-5 dBu	+8 dBu		

0 dBu=0.775 V (RMS)

** 最小入力レベル (感度) は、チャンネルとマスターのフェーダーを最大ゲインにセットしたときに公称出力 ((+4 dBu) を持つ最小信号です。

* 公称設定は、指定通り、ゲイン調整以外のすべてのコントロールを0dB (ロータリーポットで50%回転) にセットした状態です。

出力

機能	最小負荷 Z (オーム)	出力レベル		平衡/ 非平衡	コネクタ
		公称	最大		
メイン左 / 右	600	+4 dBu	+20 dBu	平衡	XLR ピン グランド ティップ ピン2 (+)、ピン3 (-) 1/4" TRS; ティップ (+)、リング (-) スリーブグランド
エフェクト、モニター センド	600	+4 dBu	+20 dBu	平衡	1/4" TRS; ティップ (+)、リング (-) スリーブグランド
コントロールルーム	600	+4 dBu	+20 dBu	非平衡	RCA: ティップ(+), スリーブグランド
ヘッドフォン	8	+4 dBu (負荷なし)	+20 dBu	非平衡	1/4" TRS; ティップ (左)、 リング (右)スリーブグランド

0 dBu=0.775 V (RMS)

ゲイン

マイク入力ゲイン調整レンジ:	4 dB - 59 dB
マイク入力 - 左/右平衡出力	79 dB (最大ゲイン)
ライン入力ゲイン調整レンジ:	-16 dB - 40 dB
ライン入力 - 左/右平衡出力	60 dB (最大ゲイン)
ステレオ5/6 1/4"ゲイン調整レンジ:	オフ - +18 dB
ステレオ5/6 1/4" - 左/右出力	42 dB (最大ゲイン)
ステレオ5/6 3.5mm/RCAゲイン調整レンジ:	オフ - +28 dB
ステレオ5/6 3.5mm/RCA - 左/右出力:	47 dB (最大ゲイン)
ステレオ9/10ゲイン調整レンジ:	オフ - +18 dB
ステレオ9/10 - 左/右出力	28 dB (最大ゲイン)

周波数応答

マイク入力 - 左/右出力、最大入力ゲイン	14 Hz to 25 kHz +0 dB/-1 dB
マイク入力 - 左/右出力、入力ゲイン12:00	9.5 Hz to 29 kHz +0 dB/-0.8 dB

全高調波歪み

<0.006% 標準、マイク - 左/右出力	(22 Hz to 22 kHz BW)
------------------------	----------------------

ハム、ノイズ

出力	残留ノイズ	S/N 比 (基準:+4dBu)	テスト条件
マスター左/右	-97 dBu	101 dB	マスターフェーダー下、チャンネルレベル下
	-90 dBu	94 dB	マスターフェーダー公称、チャンネルレベル下
	-83 dBu	87 dB	マスターフェーダー公称、チャンネルフェーダー公称、 奇数チャンネル(パン(左)、偶数チャンネル(右))
モニターセンド	-95 dBu	99 dB	全コントロールオフ
	-80 dBu	84 dB	全チャンネルセンド公称、マスター公称

(ハム、ノイズ測定: 22 Hz - 22 kHz BW)

等価入力ノイズ

-128 dBu (入力終端 150 オーム、帯域幅20 kHz)

クロストーク/減衰

隣接入力チャンネル (1 kHz) >90 dB	ミュートボタン減衰 (1 kHz) >90 dB
左 - 右出力 (1 kHz) >70 dB	チャンネルフェーダーキル (1 kHz) >85 dB

同相除去比 (マイク入力)

50 dB 最小 (20 Hz - 20 kHz)
70 dB 標準 @ 1 kHz

メーター

信号/過負荷インジケータ

6セグメント、ピークリーディング (0 dB = +4 dBu)	赤色 LED がクリッピング未満 5 dB で点灯
----------------------------------	---------------------------

寸法

12.75" 幅 x 15.1" 奥行 x 2.1875" 高さ (32.39 cm x 38.35 cm x 5.56 cm)

重量

所要電力

PV10BT:8.22 lbs (3.73 kg) PV10AT:8.26 lbs (3.75 kg)	100-240 VAC 50/60 Hz 15 ワット
--	-----------------------------



www.peavey.com

Warranty registration and information for U.S. customers available online at
www.peavey.com/warranty
or use the QR tag below



Features and specifications subject to change without notice.

Peavey Electronics Corporation 5022 Hartley Peavey Drive Meridian, MS 39305 (601) 483-5365 FAX (601) 486-1278



Logo referenced in Directive 2002/96/EC Annex IV
(OJ(L)37/38,13.02.03 and defined in EN 50419: 2005
The bar is the symbol for marking of new waste and
is applied only to equipment manufactured after
13 August 2005